

# ミュージックシンセサイザー MONTAGE M

クイックガイド、オペレーションマニュアル、データリスト

ヤマハ株式会社 基盤技術開発部 製品情報デザイングループ  
大石珠恵

2025年10月8日

# シンセサイザーとは

電子回路を使って様々な音を作り出す鍵盤楽器

- Synthesize（合成する）という言葉から来ている
- 鍵盤を弾きながらコントローラーを操作して、音を変化させる



# MONTAGE M



## ヤマハ製シンセサイザーの最上位モデル

- MONTAGE M6  
(61鍵)



- MONTAGE M7  
(76鍵)



- MONTAGE M8x  
(88鍵)



# MONTAGE M



- ユーザー：プロのシンセサイザー演奏者、専門スタッフ
- 使われ方：ライブパフォーマンス、レコーディング、楽曲制作



# MONTAGE M 説明書



製品仕様が複雑かつ多機能なので、合計1,000ページ近くに及ぶ

・クイックガイド



紙 52ページ

・オペレーションマニュアル



PDF版 597ページ

・データリスト



PDF版 261ページ

ユーザーが取説を読む時間を減らせないか

# 記載内容で工夫したこと



読み飛ばして読んでも理解できるようにすれば、ユーザーにとって時短になるのではと考えた

- 工夫したこと1 操作説明より製品理解を重視
- 工夫したこと2 大まかな情報 → 詳細説明

# 工夫したこと1 操作説明より製品理解を重視



## 概念やしくみの説明を冒頭に入れた

しくみがわかることで無駄な試行錯誤の時間を減らし、よりよい演奏や作品作りに没頭できる

### Motion Control Synthesis Engine とは

3種類の異なる音源方式を組み合わせたハイブリッド音源と、多彩なコントロールソースで複雑な音の連続的な変化を実現するモーションコントロールを組み合わせた、トータル音源システムです。

#### ハイブリッド音源

##### AWM2

リアルにサンプリングされたウェーブ（音の素材）をもとにさまざまな音を作る音源方式

##### FM-X

音のもととなる波形を別の波形で周波数変調させることで、新しい波形を作り出す音源方式

##### AN-X

シンプルな波形をもとにさまざまな変調をさせ、そこにフィルターをかけることで新しい音色を作る音源方式

#### モーションコントロール

##### スーパーノブ

複数パラメーターを同時にコントロールして多次元音変化を生み出すノブ

##### モーションシーケンサー

あらかじめ設定したコントローラーの動きを再生し、音色をシーケンシャルに変化させる機能

##### エンベロープフォロワー

入力されたオーディオのテンポに同期する音色変化を生成する機能

### 音源部



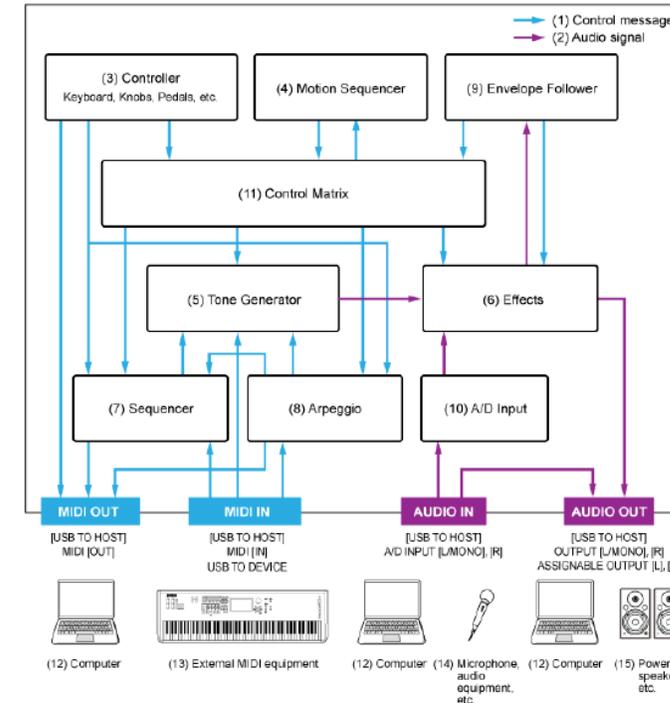
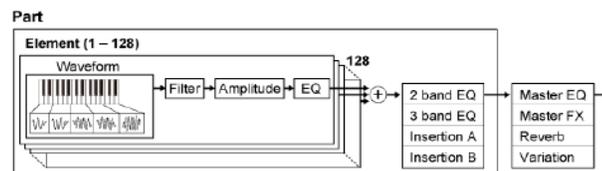
音源部には3つの異なる音源方式を組み合わせたハイブリッド音源が搭載されています。

#### AWM2音源



AWM2音源は、エレメントにアサインしたサンプリング波形で構成されたウェーブフォームをフィルターやEG(エンベロープジェネレーター)などで加工する音源です。ノーマルパートの場合は複数エレメントを最大128個組み合わせ、表現力のあるサウンドを作り出せます。さまざまな生の楽器が持つ複雑な波形をそっくりそのまま持ち、音の要素として有効に活用できるように加工されているので、ピアノや管楽器などをはじめとする楽器音を、高品位なサウンドで再現できます。また、リアルな再現性にとどまらず、フィルターやEGなどの機能を使って積極的に新しい音作りを試みることも可能です。ドラムパートは、キーを最大73個使って各鍵(キー)に打楽器音などのウェーブフォームをアサインし、ドラム演奏に適したドラムキットを構成できます。

#### ノーマルパート



# 工夫したこと2 大まかな情報 → 詳細説明

大まかな作業手順全体を示し、知りたい手順だけをこまかく調べられるようにした

・「演奏までの流れ」

クイックガイド (33ページ) → オペレーションマニュアル (18ページ～)



## 「演奏までの流れ」 ユースケースに沿った説明を重視

1. シンセサイザーのデモンストレーターに聞き取り
2. 想定されるユースケースを洗い出し
3. すべての冊子の記載内容を書き出して、記載順などを検討
4. 目次構成を決定

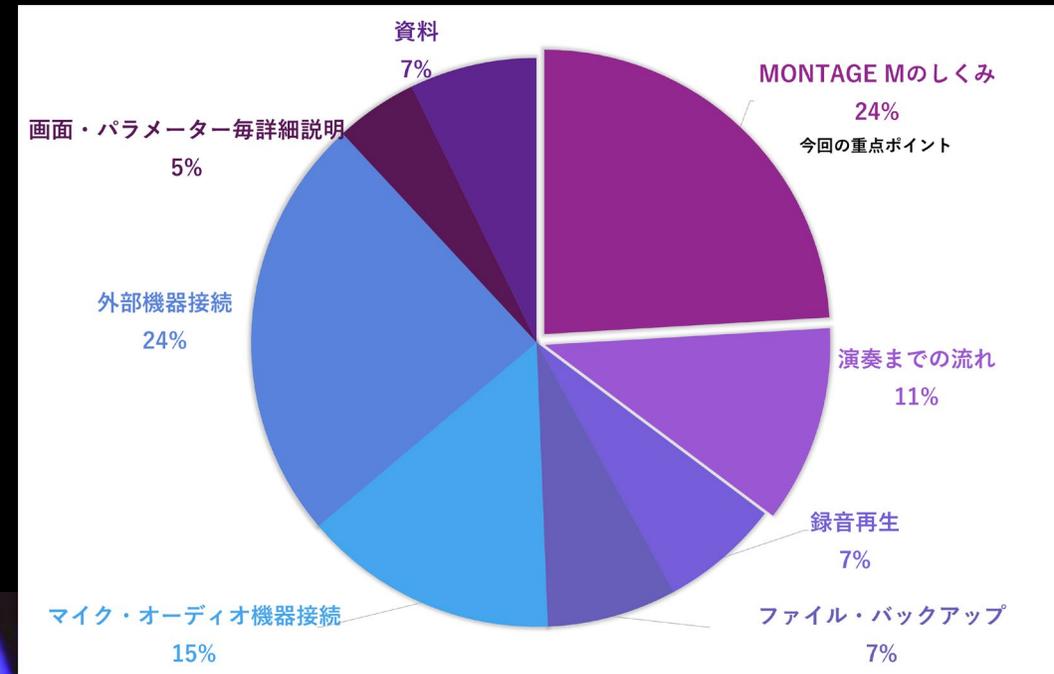
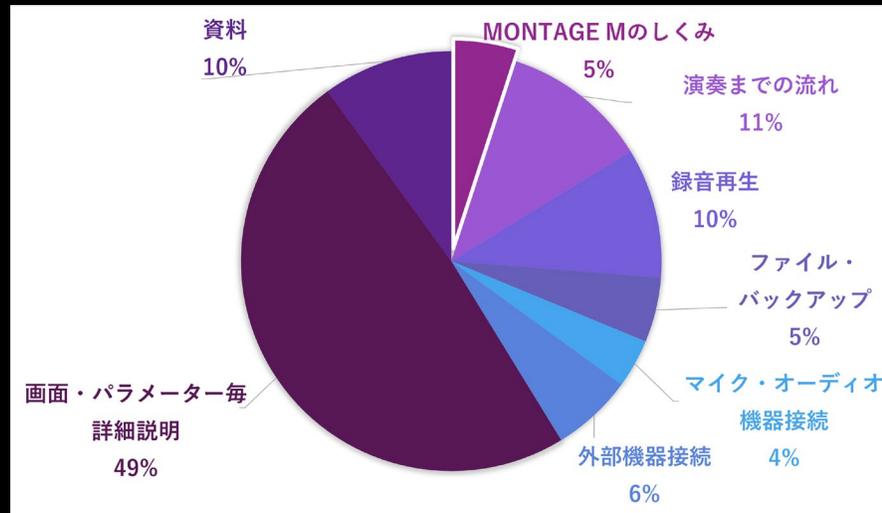
その後、仕様書や試作機を確認しながら原稿作成(必要に応じて取材と話し合い)

# エビデンス1 アクセス解析

概要やしくみの説明ページのアクセスが多く、ユーザーの関心が高いことがうかがえる

・ページ数

・閲覧比率



工夫したこと1「操作説明より製品理解を重視」の仮説が正しかった

## お客様コミュニケーションセンターシンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口のコメント

- 概念の説明がしっかり書けている
- 大まかな内容から詳しい情報へと掘っていくことで理解できる

製品の仕様や取り扱いに関するお問い合わせ  
お買い上げの販売店、または下記のお客様コミュニケーションセンターにご連絡ください。

◆お客様コミュニケーションセンター  
シンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口

フリーダイヤル

 0120-145-808

携帯電話、IP 電話からは

**050-3852-4083**

受付 月曜日～金曜日 10:00 ～ 17:00  
(祝日、センター指定休日を除く)

ヤマハ サポート・お問い合わせ  
<https://jp.yamaha.com/support/>



ヤマハ楽器音響製品お客様サポート  
LINE 公式アカウント

工夫したこと1「操作説明より製品理解を重視」と  
工夫したこと2「大まかな情報 → 詳細説明」の効果があった

情報の並べかたを全体的に見直し、

概念や全体像から詳しい説明へと進めるようにしたことで、

**「ユーザーの知りたい情報を提供すること」と「製品の価値を伝えること」が両立できた**



**YAMAHA**

*Make Waves*

---